平和を愛する世界人として

文鮮明自叙伝

文鮮明 著

世界を舞台に
愛と平和を指導してきた
統一教会文鮮明師が
初めて明かす
90年にわたる人生の真実！

創芸社

平和を愛する世界人として

文鮮明自叙伝

文鮮明 著

PEACE
WORLD LOVE

■文鮮明師自叙伝日本語版出版委員会

特別顧問	宋　榮　錫
委員長	小山田　秀生
副委員長	梶栗　玄太郎
	徳野　英治
事務局長	鴨野　守
	小林　浩
	可知　雅之
	太田　朝久
	山田　達也
	武田　吉郎
韓国	李　基　萬
	柳　在　坤
	秋　煉　求
翻訳・編集協力	株式会社 光言社

平和を愛する世界人として　文鮮明自叙伝

2009年10月2日　第1刷発行
2010年12月6日　第40刷発行

著　者———文　鮮明(ムン・ソンミョン)

訳　者———文鮮明師自叙伝日本語版出版委員会

発行人———吉木稔朗

発行所———株式会社創芸社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-2-6　丸元ビル9F
☎03(3556)5516　FAX03(3556)5520

©HSA-UWC 2009 , Printed in Japan ISBN978-4-88144-132-9

本書は、韓国・金寧社発行の『平和を愛する世界人として』を邦訳し、一部加筆修正したものです。
乱丁・落丁はお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

平和を愛する世界人として

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

序文

乾いた冬の終わりに、夜通し春雨が降りました。どれほどうれしいことでしょうか。朝の間中、庭をあちらこちらと歩き回りました。湿りを得た地から、冬の間ずっと嗅ぐことのできなかった土の香りが芳しく匂い立ち、枝垂れ柳や桜の木には小さな芽が萌え始めました。至る所から、ぽんぽんと新しい生命の芽吹きの音が聞こえてくるようです。

追いかけるように庭に出てきた妻は、いつの間にか乾いた芝の上にひょいと突き出したヨモギの新芽を摘み取ります。一晩降った雨で、すべてのものが香りを放つ春の庭園になりました。

世の中が騒がしかろうと、どうであろうと、三月になれば必ず春は訪れてきます。このように冬が去って春になり、春になれば花が満開になる自然は、年を取るほどに、より貴重なものとなってきます。私が何者だからといって、神様は季節ごとに花を咲かせ、雪を降らせ、生の喜びを与えてくださるのか。胸の内、その奥深い所から愛があふれ、それが喉元まで込み上げてきて、息が詰まるようです。

生涯、平和な世界を成すために東奔西走し、地球を何周も回りましたが、私は今、この春を迎える庭において真正なる平和を味わっています。平和もまた、神様が何の見返りも求めず、ただで下さったものです。私たちは、それをどこでなくしてしまったのでしょうか。全く見当違いの場所で捜し出そうと努力しているのかもしれません。

平和な世界をつくるために、私は生涯、この世の底辺や辺境の地を訪ね回りました。飢えている息子を前に、なすすべもなく見守るしかないアフリカの母親たちにも、川に魚がいるにもかかわらず、釣り方が分からなくて家族を食べさせられない南米の父親たちにも会いました。

私は彼らに食べ物を少し分けてあげただけですが、彼らは私に愛を施してくれました。私は愛の力に酔って、原始林を伐り拓き、種を蒔き、木を伐って学校を建て、魚を釣って、おなかを空かせた子供たちに食べさせました。体中を蚊に刺されながら夜を徹して釣りをしても幸福であり、泥土の中に太ももまですっぽりと埋まってしまっても、寂しい隣人たちの顔から陰が消えるのを見るのが喜びでした。

平和な世界に向かう近道を探して、政治に変化をもたらし、世の中を変えることにも熱中しました。ソ連のゴルバチョフ大統領に会い、共産主義と民主主義の和解を試み、北朝鮮の金日成主席と会い、朝鮮半島の平和について話し合いました。さらに、道徳面において崩れゆくアメリカに行き、清教徒（ピューリタン）の精神を目覚めさせるという医者や消防士のような役割も果たし、世界の紛争を防ぐことに没頭したのです。

私たちの運動は、イスラーム教徒とユダヤ教徒の融和のために、テロが頻発するパレスチナに入ることを恐れず、ユダヤ教徒とイスラーム教徒、キリスト教徒たち数千人を一堂に集め、和解の場を準備し、平和行進を行いました。それでも、葛藤は今も続いています。

しかし今、私はわが祖国韓国で平和の世界が大きく開いていく希望を見いだします。多くの

苦難と分断の悲しみで鍛えられた朝鮮半島で、世界の文化と経済を導く強い機運が、龍が舞い上がるように巻き起こっているのを全身で感じています。新しい春が訪れるのを誰も抑えることができないように、朝鮮半島に天運が訪ねてくるのを、私たち人間の力ではどうすることもできません。押し寄せる天運に従って、私たち民族が共に飛躍するために、しっかりと心と体の準備をしなければならない時です。

私は、たった三文字にすぎないこの名前を言うだけでも世の中がざわざわと騒ぎだす、問題の人物です。お金も、名誉も貪ることなく、ただ平和のみを語って生きてきただけなのですが、世の中は、私の名前の前に数多くの異名を付け、拒否し、石を投げつけました。私が何を語るのか、何をする人間なのかを調べようともせずに、ただ反対することから始めたのです。

日本の植民統治時代と北朝鮮の共産政権、大韓民国の李承晩政権、そしてアメリカで、生涯に六回も主権と国境を超えて、無実の罪で牢屋暮らしの苦しみを経て、肉が削られ血が流れる痛みを味わいました。しかし今、私の心の中には小さな傷一つ残っていません。真の愛の前にあっては、傷など何でもないのです。真の愛の前にあっては、怨讐（深い怨みのあるかたき、敵）さえも跡形もなく溶けてなくなるのです。

真なる愛は、与え、また与えても、なお与えたい心です。真なる愛は、愛を与えたということさえも忘れ、さらにまた与える愛です。私は生涯、そのような愛に酔って生きてきました。愛以外には、他のどのようなものも望んだことはなく、貧しい隣人たちと愛を分かち合うこと

にすべてを捧げてきました。愛の道が難しくて涙があふれ、膝をへし折られても、人類に向かう愛に捧げたその心は幸福でした。

今も私の中には、いまだすべて与えきれない愛だけが満ちています。その愛が、干からびた地を潤す平和の川となって、世界の果てまで流れることを祈りながら、この本を発表します。最近になって、私が何者かと尋ねる人がぐっと増えました。その方々の少しでも助けとなるように、これまでの生涯を振り返り、この本に率直な話を詰め込みました。ページ数に限りがあるので、語りきれない内容は次の機会にお伝えできればと思います。

これまで私を信じ、私の傍らを守り、生涯を共にしてきたすべての人に、そして、すべての難しい峠を共に克服してきた妻である韓鶴子に、無限の愛を送ります。最後に、この本を上梓するまでに多くの誠を尽くしてくださった金寧社の朴恩珠社長と、私が思いつくままに語った煩雑な内容を読者の皆様に分かりやすくお伝えするために、苦労を厭わず尽力してくださった出版社の関係者の皆様全員に、心からあふれる感謝の意を表したく思います。

二〇〇九年三月一日
京畿道加平にて

文鮮明

平和を愛する世界人として——目次

序文　3

第一章　ご飯が愛である——幼少時代

父の背におぶさって学んだ平和　14
人に食事を振る舞う喜び　20
誰とでも友達になる　24
私の人生の明確な羅針盤　28
やると言えばやる「一日泣き」の強情っぱり　36
牛を愛せば牛が見える　42
草むらの虫と交わす宇宙の話　50
「日本人はどうぞ日本に帰りなさい」　53

第二章　涙で満たした心の川——神の召命と艱難

恐れと感激が交差する中で　58
胸が痛ければ痛いほどひたむきに愛せ　63

刀は磨かなければ鈍くなる　68
巨大な秘密の門を開ける鍵　73
ぐつぐつと煮えたぎる火の玉のように　78
労働者の友となった苦労の王様　81
穏やかな心の海　86
「どうか死なずに耐え忍んでほしい」　90
拒否できない命令　95
ご飯粒一つが地球よりも大きい　104
雪の降る興南監獄で　109
国連軍が開けてくれた監獄の門　115

第三章　世界で最も中傷を浴びた人——教会創立と受難

「あなたは私の人生の師です」　122
井戸の近くに住む「気のふれた美男子」　127
教派ではない教会、教会でもない教会　131
延世大と梨花女子大の退学・免職事件　136
焦げた木の枝にも新芽は生える　140

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

苦難よ、私たちを鍛えてほしい　144
大切なのは真実の心　147

第四章　私たちの舞台が世界である理由——アメリカへ雄飛

決死の覚悟で行くべき道を行く　156
大事に稼いで大事に使う　159
世界を感動させた素晴らしい踊りの力　161
深い山奥に細い道を通した平和の天使たち　164
海に未来がある　168
アメリカに行くための最後の飛行機　176
レバレンド・ムーンはアメリカ精神革命の種　182
夢にも忘れられない一九七六年、ワシントン記念塔　186
「私のために泣かずに世界のために泣け」　192
「なぜ父が刑務所に行かなければならないのですか？」　195

第五章　真の家庭が真の人間を完成する——結婚と愛

私の妻、韓鶴子　202

この上なく善良で貴いあなた　207
夫婦が必ず守らなければならない約束　213
愛は与えて忘れなさい　217
天国の礎は平和な家庭　221
凍りついた舅の心を溶かした十年の涙　224
結婚の真の意味　227
真の愛は真の家庭から　230
愛の墓を残して旅立つ人生　234

第六章　愛は統一を導く——冷戦終焉・宗教融和

人を善にする宗教の力　242
川は流れ込む水を拒まない　248
「ソ連の地に宗教の自由を許可しなさい」　252
朝鮮半島の統一がすなわち世界の統一　258
金日成主席との出会い　263
地は分けられても民族を分けることはできない　269
銃剣を収めて真の愛で　276

第七章　韓国の未来、世界の未来——理想郷に向かって

人類史の新たなページを開く朝鮮半島　282
苦難と涙の地から平和と愛の地へ　287
二十一世紀の宗教が最終的に目指すもの　291
文化事業として実践する創造のみ業　296
海を治める者は世界を掌握する　302
海洋時代がもたらす計り知れないチャンス　306
一輪のタンポポが黄金よりも貴い　311
貧困と飢餓を賢く解決する方法　316
パンよりもパンの作り方を教えよ　322
青少年よ、志を立てれば人生が変わる！　326
グローバルリーダーは世界を懐に抱く人　331
すべてのものは天からの借り物　335
幸福の源は「為に生きる」人生　340
紛争のない世界を夢見て　343
あとがき　348

朝鮮半島
ロシア連邦
豆満江
白頭山
咸鏡北道
中華人民共和国
両江道
鴨緑江
慈江道
丹東
義州
平安北道
咸鏡南道
咸興
新義州
雲山
宣川
大同江
興南
朝鮮民主主義人民共和国
价川
定州
安州
平安南道
元山
平壤
江原道
黄海北道
臨津江
釜剛山
載寧
黄海南道
白川
江原道
大韓民国
開城
加平
春川
金浦
仁川
ソウル
漢江
旌善
原州
京畿道
忠清北道
日本海
忠清南道
錦江
慶尚北道
扶余
鶏龍山
大邱
黄海
全州
慶州
全羅北道
智異山
慶尚南道
日本国
光州
全羅南道
羅州
釜山
木浦
順天
麗水
対馬
山口
下関
巨文島
済州島
漢拏山

第一章　ご飯が愛である——幼少時代

父の背におぶさって学んだ平和

私は生涯一つのことだけを考えて生きてきました。戦争と争いがなく世界中の人たちが愛を分かち合う世界、一言で言えば、平和な世界をつくることが私の幼い頃からの夢でした。そのように言うと、「幼い時から平和を考えていたなんて、どうしてそんなことが？」と反問する人がいるかもしれません。しかし、平和な世界を夢見ることがそんなに途方もないことでしょうか。

私が生まれた一九二〇年は、日本がわが国を強制的に占領していた時代でした。一九四五年の解放以後も、朝鮮戦争やアジア通貨危機をはじめ、手に負えないほどの混乱を何度も経験し、この地は平和から程遠い歳月を送らなければなりませんでした。このような痛みと混乱はわが国だけが経験したことではありません。二度の世界大戦やベトナム戦争、中東戦争などに明らかなように、人々は絶えず互いに憎み合って、同じ人間だというのに〝敵〟に銃の照準を合わせ、彼らに向けて爆弾を爆発させました。肉が裂かれ、骨が砕ける凄惨（せいさん）な戦場を体験した者にとって、平和というのは空想に等しい荒唐無稽（むけい）なことであったかもしれません。しかし、平和を実現することは決して難しいことではありません。私を取り巻く空気、自然環境、そして人々から、私たちは容易に平和を学ぶことができます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com